

日本語



鹿児島市立美術館

Kagoshima City Museum of Art

## ごあいさつ

鹿児島市立美術館は、1954(昭和29)年9月に薩摩藩主島津氏の居城であった鶴丸城二の丸跡地に開館しました。開館から約30年間は、歴史資料館としての性格をあわせ持つ美術館として、独自のコレクションを収集・展示し地域の芸術文化の振興に寄与しましたが、多様化する美術活動と市民の要望に対応するために現在の建物へと建て替えられ、1985(昭和60)年10月29日に新装開館しました。

その後は、郷土ゆかりの作家による美術作品とあわせて、19世紀末以降の西洋美術、桜島を描いた作品などを収集・保存・展示する美術館として運営を続け、所藏品展や特別企画展の開催、美術講座・講演会の実施などの活動を行っています。

歴史的に鹿児島島の政治、文化の中心地として発展してきた城山の山麓一帯は、現在ではかごしま文化ゾーンと呼ばれ、美術館の他にも様々な文化施設が立ち並んでいます。由緒あるこの地で、鹿児島的美と歴史をお楽しみください。

スタンプ欄

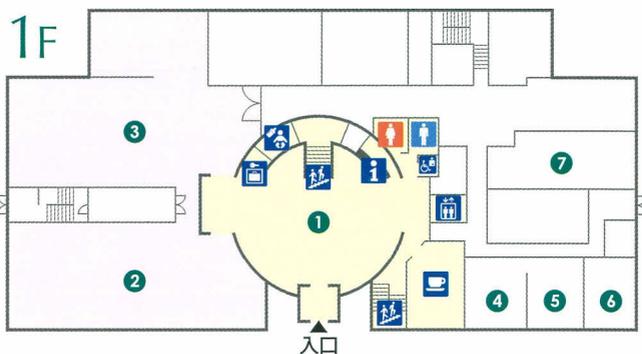
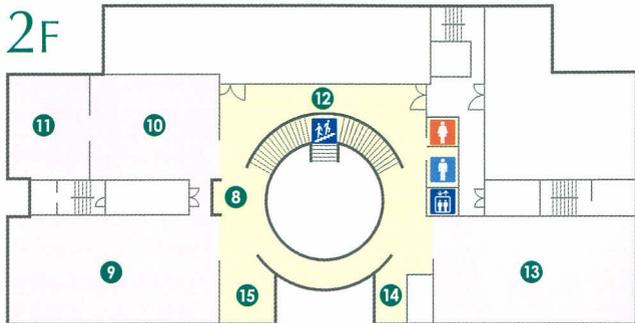
STAMP



### 美術館でのマナー

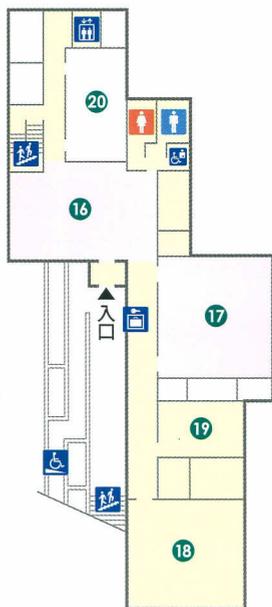
- 手荷物はロッカーに、傘は傘立てにお預けください。  
(大きなお荷物は、総合案内でお預かりします。)
- 指定場所以外での飲食(アメ・ガム・ペットボトルを含む)はできません。  
(有害な虫やカビから作品を守るため、館内では飲食ができる場所を制限しています。)
- 館内は禁煙です。
- 展示作品には手を触れないでください。
- 展示室内でのメモや横写には鉛筆をご利用ください。
- 展示室内での大きな声での会話はご遠慮ください。
- 展示室内での写真撮影はご遠慮ください。

## 館内施設のご案内



-  総合案内
-  エレベーター
-  階段
-  ロッカー
-  カフェ・ミュージアムショップ
-  スロープ
-  授乳室
-  女性トイレ
-  男性トイレ
-  多目的トイレ

## B1F



### 建築概要

構造	鉄筋コンクリート造、地下1階地上3階建
敷地面積	6,842.83㎡
建築面積	2,590.23㎡
延床面積	5,469.49㎡

## 1F

### ① エントランスホール

美術館のトレードマークでもある吹き抜ける天井ドームは、薩摩切子の文様を元にデザインしたものです。

### ② 一般展示室(1) 289.51㎡

### ③ 一般展示室(2) 372.31㎡

公募展、団体展などの大規模な展覧会の貸展示スペースです。また、美術館が主催する特別企画展の会場としても使用しています。

### ④ 事務室

### ⑤ 学芸員室

### ⑥ 館長室

### ⑦ 研究・調査室

## 2F

### ⑧ 所蔵品展観覧券売場

### ⑨ 常設展示室(1) 237.10㎡

### ⑩ 常設展示室(2) 151.58㎡

### ⑪ 常設展示室(3) 95.13㎡

所蔵品のうち、郷土ゆかりの作家の作品、近現代の西洋美術を展示しています。季節ごとに展示替えを行い、年間を通して様々な作品をご覧いただけます。

### ⑫ 展示ギャラリー 161.63㎡

所蔵品のうち、彫刻や工芸(薩摩焼、薩摩切子など)を展示しています。無料でご覧いただけるコーナーです。

### ⑬ 企画展示室 229.83㎡

小企画展(所蔵品のテーマ展示)を定期的に開催しています。また、美術館主催の特別企画展の会場としても使用しています。

### ⑭ 休憩コーナー

### ⑮ アートライブラリー

美術に関する本や雑誌、展覧会カタログなどをご覧いただけます。

## B1F

### ⑯ 展示ロビー 128.10㎡

小規模なグループ展などの貸展示スペースです。

### ⑰ 講堂 129.71㎡

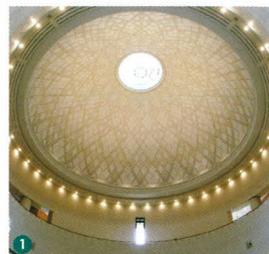
講演会等の会場です。また、小規模なグループ展などの貸展示スペースとしても使用しています。

### ⑱ 市民アトリエ(1) 123.54㎡

### ⑲ 市民アトリエ(2) 47.77㎡

美術館が主催する美術講座を開催するほか、グループでの制作スペースとして貸し出しを行っています。市民アトリエ(2)には、銅版画とリトグラフのプレス機があります。

### ⑳ 会議室



収蔵作品

鹿児島は、日本の近代洋画の発展に貢献した黒田清輝や藤島武二、和田英作をはじめ多くの優れた作家を輩出しています。当美術館では、こうした郷土作家の作品を中心に、桜島など郷土の風景を描いた作品や、モネ、ピカソ、カンディンスキー、ロダン、マリーニ、ムーアなど西洋の近現代美術の巨匠の作品を収集しています。

年間を通じてご覧いただける所蔵品展では、季節ごとに展示替えを行いながら、郷土作家を中心とした近世以降の日本美術と印象派から現代までの西洋美術の流れをあわせてご紹介しています。



黒田清輝「アトリエ」1890



海老原喜之助「樵夫と熊」1929



カンディンスキー「二つの黒」1941



モネ「睡蓮」1897-98頃

※所蔵品展の内容は、展示替えや貸し出し、修復等により定期的に変ります。

油彩画

鹿児島出身の洋画家にはまず近代の黎明期に活躍した床次正精と曾山幸彦がいます。そして近代洋画の父と称される黒田清輝と彼に続く藤島武二、和田英作らは、日本洋画界の主流を形成しました。それに対し、西洋の新しい美術運動を日本に紹介した有島生馬とその薫陶を受けた東郷青児、山口長男、海老原喜之助らは、個性的な作風で近代洋画の展開に大きな影響を与えました。

日本画

鹿児島の日本画は、雪舟の高弟・秋月等観とその門人の等碩、等坡らに始まり、江戸中期の狩野派の絵師・木村探元とその弟子・押川元春、山路探定らにより発展しました。幕末には、狩野派の能勢一清、小林養建、中島信徴をはじめ四条派の税所文豹らが活躍しました。近代以降では、小松甲川、橋口五葉、満田天民らがいます。

版画

鹿児島出身の版画家には、欧米でも人気の高い橋口五葉がいます。五葉は、大正時代に浮世絵版画の技法を復活し、優美な美人木版画を制作しました。現代の版画家には、自らの戦争体験を元に制作した銅版画《初年兵哀歌》シリーズで世界的に高い評価を得た、熊本出身の浜田知明がいます。

彫刻

鹿児島の彫刻家は、明治以降にそれぞれ特徴的な業績を残しています。新納忠之介は、廃仏毀釈によって荒蕪した日本古美術を守るために仏像などの修復に専念しました。また、西郷隆盛銅像の作者として有名な安藤照はマイヨールの影響を受け彫刻本来の量感を追求しました。現代の作家には、県内外に多くの公共彫刻を制作している中村晋也がいます。

工芸

伝統工芸では、朝鮮から帰化した陶工によって興り400年以上にわたって継承された薩摩焼や、幕末に薩摩で完成されたガラス工芸品の薩摩切子などが全国的に有名です。現代工芸では、象嵌や彩盛磁などの技法を用いた作品で高く評価された陶芸家の宮之原謙や、簡素な美しさが特徴的な作品を制作した鍍金作家の染川鐵之助、彫金に新たな境地をもたらした帖佐美行らが活躍しました。

桜島コレクション — 桜島に魅了された画家たち

鹿児島のランドマークである桜島は、郷土の風土に根差した画題の中でも代表的なものの一つです。近代以降、洋画家の中川一政、曾宮一念、田村一男、香月泰男、日本画家の西山英雄、加山又造、横山操など、多くの画家が桜島に魅せられてその姿を描いています。当館では、四季折々、いろいろな表情を見せる桜島をモチーフとした作品を収集・展示しています。様々な表現技法による桜島作品をお楽しみください。



1



2



© Sompo' Museum of Art, 18037 3



4



5



6



7



8



9



10

- 1 藤島武二「絞剪眉」1927
- 2 和田英作「富士(吉田より)」1933
- 3 東郷青児「ギターを持つ女」1929
- 4 木村探元「富嶽雲煙之図」1753
- 5 橋口五葉「化粧の女」1918

- 6 安藤照「裸婦座像」1942
- 7 新納忠之介「法隆寺金堂天蓋の天人 模刻」制作年不詳
- 8 宮之原謙「象嵌磁泰山木大皿」1976
- 9 壺野系「白釉茶碗火針手」17C前期
- 10 「紅色切子蜘蛛の巣文皿」19C中頃



11



12

- 11 田村一男「西桜島ゆきのあしたの日本晴」1973
- 12 西山英雄「噴炎(桜島)」1985

油彩画

近代絵画は、19世紀末に印象派が出現した後、様々な美術運動が次々と起こり、現代美術へと展開していきます。当館では、印象派の代表作家のモネやピサロ、シスレー、ルノアール、ポスト印象派のセザンヌをはじめ、象徴派のルドン、ナビ派のボナール、フォーヴィスムのマチス、ルオー、デュフィ、キュビスムのピカソ、シュルレアリスムのダリ、エルンスト、エコール・ド・パリのコトリロ、ローランサン、パスキン、抽象絵画のカンディンスキー、戦後はアンフォルメル、デュビュッフェやフォンターナ、アメリカ現代美術のウォーホル、ステラなど、近現代の絵画史に沿って展示を行っています。

版画

写真の複製技術の発展にともない、20世紀の版画は視覚情報を複製・伝達する役目を終え、美術作品として注目されるようになりました。ピカソら著名な芸術家たちが版画制作に積極的に取り組み始めたのもこの頃からです。当館では、ルドンの《聖ヨハネ黙示録》、マチスの《ジャズ》、ダリの《マルドロールの歌》、カンディンスキーの《響き》、ムーアの《象の頭蓋骨》、ジャコメッティの《終りなきパリ》などの版画を、油彩画や彫刻とあわせて展示しています。

彫刻

近代彫刻は、ロダンを起点として発展しました。強い構築性を重んじたブルデル、優れた頭像や胸像をつくったデスピオ、豊かな量感を表現したマイヨールをはじめ、イタリア近代彫刻の巨匠マリーニやマンゾー、新たなフォルムを求めたアーケンペンコやキュビスムの探査者ザッキン、抽象彫刻の先駆者ムーアなど、近現代の代表的な彫刻家の作品を展示しています。



© 2019 - Succession Pablo Picasso - BCF(JAPAN) 13



© Salvador Dali, Fundació Gala-Salvador Dali, JASPAR Tokyo, 2019 C2680 14



© 2019 The Andy Warhol Foundation for the Visual Arts, Inc. / Licensed by ARS, New York & JASPAR, Tokyo C2680 15



16

- 13 ピカソ「女の顔」1943
- 14 ダリ「三角形の時間」1933
- 15 ウォーホル「多色による4つのマリリン」1979-86
- 16 マチス『ジャズ』より「サーカス」1947
- 17 ロダン「ユスタッシュ・ド・サン＝ピエール」1889
- 18 マイヨール「とらわれのアクション」1905



17



18

# ご利用案内

## ■ 開館時間

午前9時30分～午後6時(入館は午後5時30分まで)

## ■ 休館日

月曜日(祝日の場合は翌平日)、12月29日～1月1日

## ■ 観覧料 所蔵品展・小企画展共通

	個人	団体(20人以上)	年間パスポート
一般	300円	240円	600円
高大生	200円	160円	400円
小中生	150円	120円	300円

※特別企画展の観覧料はその都度定める料金。

※年間パスポートをご購入いただくと、購入日から1年間、所蔵品展と小企画展を何度でもご覧いただけます。

※鹿児島市内居住の70歳以上の方、障害者の方およびその付添人1人は、所蔵品展と小企画展の観覧料が免除されます。

## ■ 交通案内

- JR鹿児島中央駅より車で10分。
- 市電「朝日通」、バス「金生町」下車徒歩5分。
- カゴシマシティビューバス「西郷銅像前」下車徒歩1分。

## ■ 駐車場

専用駐車場(無料)あり。



## 鹿児島市立美術館

〒892-0853鹿児島市城山町4-36

TEL:099-224-3400 FAX:099-224-3409

e-mail: bijutu@city.kagoshima.lg.jp

http://www.city.kagoshima.lg.jp/artmuseum/

